



ロータリー
変化をもたらす

2017-2018年度

■会長 愛宕 彰

■幹事 寺田 祐子

例会日: 金曜日 12:30-13:30

例会場: スカイホテル魚津

第3117回例会

- 点鐘・握手
- 君が代斉唱
- ロータリーソング「奉仕の理想」
- 四つのテスト唱和
- ゲスト並びにビジターの紹介 なし
・名誉会員 根岸 朗(ねぎし あきら)君
- 誕生祝い 1日: 広瀬夫人

今日で妻裕子は私と同じ年になりました。今日が誕生日ということをつっかり忘れてプレゼントも用意しておりませんので、この素晴らしい胡蝶蘭を贈りたいと思います。

■ 会長挨拶 愛宕会長

愛宕年度最後の1か月となりました。立つ鳥跡を濁さずで、川岸さんにしっかりバトンタッチをしていきたいと思ひます。

5/27の魚津西RCの50周年記念式典は非常に立派に行われ、RI会長からお祝いのメッセージが来ておりました。魚津RCは次は70周年ですが、75周年の方が25の倍数で良いのかなと思っておりました。

■ 幹事報告 寺田幹事

★ガバナー事務所より

- ・地区大会PRキャラバン訪問受け入れのお願い
- ・クラブ広報委員長会議のご案内

★その他

- ・魚津西RCより 50周年式典の御礼
- ・魚津市防犯協会 賛助会費の納入のご協力について
- ・魚津市暴力追放運動推進協議会 会費納入のお願い
- ・魚津市交通センター表彰式並びに懇親会の開催について

■ 6月例会案内【ロータリー親睦活動月間】

- 6月8日(金): 野外奉仕例会
- 6月15日(金): 会員卓話 岩崎君
- 6月22日(金): 委員会年間活動報告(常任委員長)
- 6月29日(金): 夜間例会(納会)

★6月SAA補助: 大島君・坪井君 よろしくお願ひします。

■ 出席報告 平崎委員長

本日の出席	欠席者	3115回メイクアップ	3115回出席率
24名	7名	5名	96.6%(←75.9%)

■ ニコボックス報告 大割委員長

★根岸君:

★生駒君: 5/1~24日まで札幌の長女が私の介護支援の為来てくれました。4日間会議の為に一緒に夕食はできませんでした。



6月のRIレート
\$1=108円

[魚津総合公園]
[スカイホテル]
[スカイホテル]
[グランミラージュ]

■委員会報告

★職業奉仕委員会 青山委員

- ・ピロリ菌の抗体検査結果について(63名中9名が陽性)

★社会奉仕委員会 野澤常任委員長

- ・第2回社会奉仕委員会の開催(6/2)

本日の卓話

『 私にとっての松下幸之助 』

茶谷君

1. 人生の転機であった『松下幸之助 商心塾 商学院』への入塾

2. 四書『大学』『孟子』『論語』『中庸』から学ぶもの

- ・『大学三綱領』 明德 親民 至善

大学の道は、明德を明らかにするに在り、民を親(あら)たにするに在り、至善に止(とど)まるに在り。

- ・『苟^{マコト}に日に新たに、日々に新たに、また日に新たなり』

3. 『素直な心』

定義

「素直な心とは、正直にして寛容な心、我執も偏見も妬みも憎しみもない心、ひろく人の教えを受ける心、分を楽しむ心。かつ静にして動、動にして静の働きある心、真理に通ずる心。素直な心が成長すれば、心の働きが高まりものの道理が明らかになって、物事の実相をつかむ力も生まれるため、真理をつかむ動きのある心、物事の真実を見極めそれに適応していく心、つまり融通無碍(ゆうずうむげ)、ついには円満具足の人格を大成して、悟りの境地にも達するようになります。」

効用

「私心なく真理というか正しいことに従うというところに基本の態度があり、現状にとらわれず、たえず先をみる姿につながる。何事によらず、困難に直面して志を失わず、よりよき道を素直に私心なく考え続けていけば、そこによき知恵も集まってきて、今まで考えつかなかった画期的な道が開けてくる。個人的感情にとらわれることなく、正しいことは正しい、と素直に判断できるようになる。一つのことにとらわれると、無理が生じやすくなる。悪の存在も素直に認め、いかに悪に対処していくか考えることが大事で、そうすれば必要以上に心をわずらわせることもなくなる」

提言

「私は素直ということ、やかましく言うているんですよ。というのは、自分の体験からいっても、素直な人はいちばんうまく仕事をします。この人は素直な人やなと思う人ほど、仕事はうまいですよ。素直な心になればね、やっぱり実相が分かるわけですね。それで、私は標語にしたんです。『素直な心はあなたを強く正しく聡明にします』と。強く正しく聡明になるんや。だから、素直な心がなかったらいかん。」

4. 『共存共栄』 経営者と職人 利他の精神



松下幸之助語録

- ・樂觀よし悲観よし。悲観の中にも道があり、樂觀の中にも道がある。
- ・とにかく、考えてみることである。工夫してみることである。そして、やってみることである。失敗すればやり直せばいい。
- ・失敗の原因を素直に認識し、「これは非常にいい体験だった。尊い教訓になった」というところまで心を開く人は、後日進歩し成長する人だと思います。
- ・すべての人を自分より偉いと思って仕事をすれば、必ずうまくいくし、とてつもなく大きな仕事ができるものだ。
- ・無理に売るな。客の好むものも売るな。客のためになるものを売れ。
- ・志低ければ、怠惰に流れる。
- ・競争も必要、対立することもあっていい。だが敵をも愛する豊かな心を持ちたい。
- ・叱るときには、本気で叱らんと部下は可哀想やで。策でもって叱ってはあかんよ。けど、いつでも、人間は偉大な存在であるという考えを根底に持っておらん
- ・才能なきことを憂う必要はないが、熱意なきことをおそれなくてはならない。
- ・悩んでも悩まない、そういうように感じる事ができれば、人生は決して心配することはない。
- ・人がこの世に生きていく限り、やはり何かの理想を持ちたい。希望を持ちたい。それも出来るだけ大きく、出来るだけ高く。
- ・人の言に耳を傾けない態度は、自ら求めて心を貧困にするようなものである。
- ・人と比較をして劣っているといっても、決して恥ずることではない。けれども、去年の自分と今年の自分とを比較して、もしも今年が劣っているとしたら、それこそ恥ずべきことである。
- ・「それは私の責任です」ということが言い切れてこそ、責任者たりうる。
- ・自分が利を得るために、不必要に自分の膝を屈することは決してすまい。なぜなら、そうして得られた応援や協力は、また目に見えないしがらみを生み、道を暗くするからである。
- ・力強さは使命感を持つところから生まれる。
- ・人生には損得を超越した一面、自分がこれと決めたものには命を賭けてでも、それに邁進するという一面があってもよいのではないだろうか。
- ・一方はこれで十分だと考えるが、もう一方はまだ足りないかもしれないと考える。そうしたいわば紙一枚の差が、大きな成果の違いを生む。
- ・人類の生命は無限。だからその未来は無限。だから、まだまだお互いに進歩しなければならぬのである。
- ・視野の狭い人は、我が身を処する道を誤るだけでなく、人にも迷惑をかける。
- ・百人までは命令で動くかもしれないが、千人になれば頼みます、一万人にもなれば、拜まなければ人は動かない。
- ・人の心は日に日に変わっていく。そして、人の境遇もまた、昨日と今日は同じではないのである。
- ・誠実に謙虚に、そして熱心にやることである。
- ・どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない。いま、現在に最善を尽くすことである。
- ・世間には大志を抱きながら大志に溺れて、何一つできない人がいる。言うことは立派だが、実行が伴わない。世の失敗者には、とかくこういう人が多い。
- ・社会生活は日々これ戦い、日々これ苦難。その時に心が動揺するかしないかは、信念の有無で決まる。
- ・冷静ほど、大事なことはないのである。
- ・知識なり才能なりは必ずしも最高でなくてもいい、しかし熱意だけは最高でなくてはならない。
- ・何としても二階に上がりたい、どうしても二階に上がろう。この熱意がハシゴを思いつかせ、階段を作りあげる。上がっても上がらなくてもと考えている人の頭からは、ハシゴは生まれぬ。
- ・青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ、勇気にみちて、日に新たな活動を続けるかぎり、青春は永遠にその人のものである。
- ・自分が方向を変えれば新しい道はいくらでも開ける。
- ・「ありがとう」と言う方は何気なくても、言われる方はうれしい、「ありがとう」これをもっと素直に言い合おう。
- ・人を使うには、ほめて使う、叱って使う、批判して使うなどいろいろあるが、ほめて使う人が概して成功している。
- ・心くばりの行き届いた仕事は一朝一夕には生み出せない。やはり日ごろの訓練や躰がものをいう。
- ・志を立てるのに、老いも若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ず開けるのである。
- ・部下に大いに働いてもらうコツの一つは、部下が働こうとするのを、邪魔しないようにするということだ。
- ・何事もゆきづまれば、まず、自分のものの見方を変えることである。案外、人は無意識の中にも一つの見方に執して、他の見方のあることを忘れがちである。
- ・悩みはあって当たり前。それは生きている証であり、常に反省している証拠でもある。
- ・売る前のお世辞より売った後の奉仕、これこそ永久の客を作る。
- ・逆境もよし、順境もよし。要はその与えられた境遇を素直に生き抜くことである。
- ・「自分の行う販売がなければ、社会は運転しない」という自信をもつことであり「それだけの大きな責任を感じよ」ということがしっかりした商売ができるかどうかの基本になりますな。
- ・対立大いに結構。正反対大いに結構。これも一つの自然の理ではないか。対立あればこそその深みである。妙味である。だから、排することに心を労するよりも、これをいかに受け入れ、これといかに調和するか、心を労したい。
- ・感謝の心が高まれば高まるほど、それに正比例して幸福感が高まっていく。
- ・誠意や真心から出たことばや行動は、それ自体が尊く、相手の心を打つものです。
- ・知恵のポンプは汲めば汲むほど湧いてくるんや。
- ・アイデアを生むと言っても、口先だけでは生まれぬ。これもやはり熱心であること。寝てもさめても一事に没頭するほどの

- 熱心さから、思いもかけぬ、よき知恵が授かる。
- 師をそのまま模倣するだけでは師以上にはなれないけれど、その考えをよく吸収消化して自ら励んでいけば、師以上の人物になれるかもしれませんね。
- 叱ってくれる人を持つことは大きな幸福である。
- なすべきことをなす勇氣と、人の声に私心なく耳を傾ける謙虚さがあれば、知恵はこんこんと湧き出てくるものです。
- 時には常識や知識から開放され、思いつきというものを大切にしてみてもどうか。
- 昨日の考えは、今日は一新されていなければならないし、今日のやり方は、明日にはもう一変していなければならない。
- 素直な心とは、何物にもとられることなく物事の真実を見る心。だから素直な心になれば、物事の実相に従って、何が正しいか、何をなすべきかということ、正しく把握できるようになる。つまり素直な心は、人を強く正しく聡明にしてくれるのである。
- 自分をほめてあげたいという心境になる日を持ちたい。
- 恵まれた生活も結構だし、恵まれない暮らしも結構、何事も結構という気持が大切だと思います。
- 普通の努力では、チャンスを見極められない。熱心の上に熱心であることが見極める眼を開く。
- 苦しかったらやめればいい、無理をしてはならない。無理をしないといけないのはレベルが低い証拠。真剣に生きる人ほど無理はしない。無理をしないというのは消極的な意味ではない。願いはするが無理はしない。努力はしても天命に従う。これが疲れないこつである。
- 商売とは、感動を与えることである。
- 小利口に儲けることを考えたらあきません。世の中にぼろいことはないから、結局流した汗水の量に比例して、成功するわけですね。汗もかかずして、成功するというのもたまにはありますけど、それはきわめて僥倖な人で、普通はない。
- たとえ平凡で小さなことでも、それを自分なりに深く噛みしめ味わえば大きな体験に匹敵します。
- ぼくが奉公している時分に一人前になるためには、小便が赤くなるくらいにならないとあかんのやそういうことを二、三べん経てこないことには、一人前の商売人になれんぞということ、親方から聞いた。どうということかという、商売で、心配で心配でたまらん、もう明日にでも自殺しようかという所まで追い込まれたら、小便が赤くなるという。そういうようなことをしてきて初めて一人前の商売人になる。だから尋ねるんやが、あなた、儲からん儲からん言うけど、小便赤くなったことあるか？
- 「天は二物を与えず」と言うが、逆に「なるほど、天は二物を与えないが、しかし一物は与えてくれる」ということが言えると思う。その与えられた一つのを、大事にして育て上げることである。
- 私は、失敗するかもしれないけれども、やってみようというような事は決してしません。絶対に成功するのだということ、確信してやるのです。何が何でもやるのだ、という意気込みでやるのです。
- むずかしいことはできても、平凡なことはできないというのは、ほんとうの仕事をする姿ではない。
- 人の長所が多く目につく人は、幸せである。
- 経営者にとって大事なことは、何と言っても人柄やな。結局これに尽きるといってもかまわんほどや。まず、暖かい心というか、思いやりの心を持っておるかどうかということやね。
- 無限に発展する道はいくらでもある。要はその道を探し出す努力である。
- 熱心は、人間に与えられた大事な宝である。そして、この宝は、誰にでも与えられているのである。
- 人には燃えることが重要だ。燃えるためには薪が必要である。薪は悩みである。悩みが人を成長させる。
- 自分の仕事は、人の助けなくして、一日も進み得ないのである。
- 自分は自分である。何億の人間がいても自分は自分である。そこに自分の自信があり、誇りがある。
- 学ぶ心さえあれば、万物すべてこれ我が師である。
- せつかくの99パーセントの貴重な成果も、残りの1パーセントの止(どど)めがしっかりと刺されていなければ、それは初めからなきに等しい。
- 自らも楽しみ人々にも喜びを与える。大切な人生をこうした心構えで送りたい。
- 企業は存在することが社会にとって有益なのかどうかを世間大衆から問われていますが、それに答えるものが経営理念です。つまり、経営者は他から問われると問われざるにかかわらず、この会社は何のために存在しているのかそしてこの会社をどういう方向に進め、どのような姿にしていくのかという企業のあり方について、みずから問い、みずから答えるものを持たなくてはならない。言い換えれば、確固たる経営理念を持たなくてはならないということです。
- 人は何度やりそこなっても、「もういっぺん」の勇氣を失わなければ、かならずものになる。
- 現在与えられた今の仕事に打ち込めないような心構えではどこの職場に変わっても決していい仕事はできない。
- 仕事が伸びるか伸びないかは、世の中が決めてくれる。世の中の求めのままに、自然に自分の仕事を伸ばしてゆけばよい。
- 礼儀作法は人間関係を滑らかにする。社会生活の潤滑油である。
- 誰でもそうやけど、反省する人は、きっと成功するな。本当に正しく反省する。そうすると次に何をすべきか、何をしたらいいかということ、きちんとかちんとわかるからな。それで成長していくわけや、人間として。
- いくつになってもわからないものが人生というものである。わからない人生を、わかったようなつもりで進むほど危険なことはない。
- 十のサービスを受けたら十一を返す。その余分の一のプラスがなければ、社会は繁栄していかない。
- 自分の金、自分の仕事、自分の財産。自分のものと言えば自分のものだけれど、これもやっぱり世の中から授かったもの。世の中からの預かり物である。
- どんなにいいことを説いても、そのなすところがそれに反していたのでは、十分な説得力は持ち得ない。
- 失敗すればやり直せばいい。やり直してダメなら、もう一度工夫し、もう一度やり直せばいい。
- 苦難がくればそれもよし、順調ならばさらによし、という心づもりを常に持ち人一倍の働きを積み重ねてゆくことが大切だと思う。
- 人生における成功の姿は、予知できない障害を乗り越え、自分に与えられた道を着実に歩いていくことにあられる。
- 思ったことが全部実現できたら危ない。3回に1回くらいがちょうどいい。
- 私は死の直前まで、運命に素直に従いたい。

- ・美と醜は表裏一体。美の面に囚われ、反面の醜を責めるに急なのは、真実を知らぬ姿である。
- ・いくら熱心でもムダなことやったらいけません。それがムダかどうかは、あなた自身で考えなさい。これはムダなことかどうか、一つひとつ検討しなさい。必ずムダなことをやっているに違いない。
- ・謙虚さを失った確信は、これはもう確信とはいえず、慢心になってしまいます。
- ・男は男、女は女。牛はモーで馬はヒヒン。繁栄の原理はきわめて素直である。
- ・失敗することを恐れるよりも、真剣でないことを恐れたい。
- ・悪い時が過ぎれば、よい時は必ず来る。おしなべて、事を成す人は、必ず時の来るのを待つ。あせらずあわてず、静かに時の来るを待つ。時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう。だが何もせずに待つ事は僥倖を待つに等しい。静かに春を待つ桜は、一瞬の休みもなく力を蓄えている。たくわえられた力がなければ、時が来ても事は成就しないであろう。
- ・商売や生産はその商店や製作所を繁栄させることにあらず、その働き、活動によって社会を富ましめるところにその目的がある。
- ・決心することが、社長と大将の仕事である。
- ・世の為、人の為になり、ひいては自分の為になるということをやったら、必ず成就します。
- ・私が今日の大を成したのは、それはあらかた運ですね。一日一日を努力して生きてきただけのことです。強いて言えば、積み重ねがすべてです。人間万事、世の中すべては天の摂理で決まるのが90%、人間が成し得るのはたかだか10%ぐらいだと思っています。
- ・自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、他の人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。広いときもある。狭いときもある。のぼりもあれば、くだりもある。坦々としたときもあれば、かきわけかきわけ汗するときもある。この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまるときもあろう。なぐさめを求めたくなるときもあろう。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。あきらめろと言うのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、とにかくこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。他人の道に心を奪われ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。
- ・鳴かぬなら それもまたよし ホトギス
- ・迷う、ということは、一種の欲望からきているように思う。ああもなりたい、こうもなりたい、こういうふうに出世したい、という欲望から迷いがでてくる。それを捨て去れば問題はなくなる。
- ・誰も争うために商売しているわけではありません。
- ・半分は先輩から教えてもらう、半分は部下から教えてもらう。
- ・正当以上の卑屈な努力までする必要はない。
- ・どんな賢人でも、その人ひとりの知恵には限りがあって、だから自分の知恵、才覚だけで事を運べば、考えがたくなくなる。視野が狭くなる。
- ・人は、あるところでは卑劣に行動しながら、別のところで高德に振る舞うことは、できないのである。その些細な心の緩みやごまかしが、全体を蝕んでいくのである。人は騙せても自分自身は騙せない。
- ・山は西からも東からでも登れる。自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでも開ける。
- ・石の上にも三年という。しかし、三年を一年で習得する努力を怠ってはならない。
- ・私は小さい頃貧しかったので、最初は腹一杯食べたい夢でした。丁稚奉公にいつてからは、貯金して早く店を持ちたいと思いました。商売をはじめても、大きな会社など望みませんでした。一段上の夢を着実にこなしていっただけです。
- ・人間というものは、気分が大事です。気分がくさっていると、立派な知恵才覚を持っている人でも、それを十分に生かせません。しかし気分が非常にいいと、今まで気づかなかったことも考えつき、だんだん活動が増してきます。
- ・万策尽きたと思うな。自ら断崖絶壁の淵にたて。その時はじめて新たな風は必ず吹く。
- ・失敗の多くは、成功するまでにあきらめてしまうところに、原因があるように思われる。最後の最後まで、あきらめてはいけないのである。
- ・部下の失敗はただ叱れば良いというものではない。失敗を自覚している時には慰めも又必要です。
- ・人間は本来働きたいもの。働くことをじゃましないことが、一番うまい人の使い方である。
- ・よく人の意見を聞く、これは経営者の第一条件です。私は学問のある他人が全部、私より良く見え、どんな話でも素直に耳を傾け、自分自身に吸収しようと努めました。
- ・こけたら、立ちなはれ。
- ・私のこれまでの人生というものは、さまざまなことを教えてくれた多くの人々の「一言」によって支えられ、成り立っていると書いても過言ではありません。
- ・他人はすべて自分よりもアカンと思うよりも、他人は自分よりエライのだ、自分にないものをもっているのだ、と思うほうが結局はトクである。
- ・商売であがった利益は、法律上は個人のものであるけれど、しかし実質的には社会の共有財産である。したがってその一部は自分の良識で使うことが許されるけれども、大部分は社会から預かった金である。財産があることは、それでさらに事業をしなければならぬ。
- ・人間の知恵というものは、しほればいくらでも出てくるものである。もうこれでおしまい。もうこれでお手上げなどというものはない。